



2019年11月7日

各 位

会 社 名 株式会社ムゲンエース
 代 表 者 名 代表取締役社長 藤田 進一
 (コード番号: 3299 東証第一部)
 問 合 せ 先 取締役管理本部長 大久保 明
 (TEL. 03-5623-7442)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2019年2月12日に公表いたしました2019年12月期(2019年1月1日～2019年12月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2019年12月期 連結業績予想の修正(2019年1月1日～2019年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2019年2月12日公表)	百万円 58,143	百万円 5,043	百万円 4,381	百万円 2,826	円 銭 116.03
今回修正予想(B)	40,175	3,710	3,048	1,959	80.43
増減額 (B-A)	△17,967	△1,333	△1,332	△867	—
増減率(%)	△30.9	△26.4	△30.4	△30.7	—
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	53,931	5,985	5,237	3,356	137.80

2. 修正の理由

当社グループの主力事業である不動産売買事業におきまして、郊外物件の需要減少や不動産価格の高止まり等投資物件の選別が厳しくなったことや、金融機関による個人投資家への融資厳格化の影響が続いたことにより、仕入・販売における同業他社との競争が一層激化し、結果販売環境が厳しい状況となりました。

このような不動産市況の影響もあり、当社の投資用不動産の販売は、10億円以上の大型物件や個人投資家を中心に販売していた投資用区分物件の販売が低迷しました。また、居住用不動産の販売に関しても、仕入・販売ともに同業他社との競合状況が期初計画以上に激しくなっている影響を受け、売上高が当初計画を大きく下回る見込みとなりました。

利益面では、売上原価や販管費の費用の抑制を行いましたが、当第3四半期までの販売の伸び悩みが影響し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が予想を下回る見込みとなりました。

この結果、上記のとおり通期業績予想を修正することといたします。

当社グループとしましては、期初から継続している長期在庫物件を中心に販売価格の見直しや物件販売を促進するための販売体制強化、在庫の入替えを実施し、販売改善に努めております。また、立地環境

の良い都心部の仕入にも注力しており、業績向上に努めてまいります。

なお、期末配当予想については、継続的かつ安定的な配当の維持に努めていることや経営環境等を総合的に考慮した結果、2019年2月12日公表（1株当たり30円）から変更はありません。

以 上

※ 業績予想に関する留意事項：上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。